

## 令和3年度第2回尼崎市文化財保護審議会会議録要旨

### 1 日 時

令和3年12月17日(金) 午後2時00分～4時00分

### 2 場 所

尼崎市立歴史博物館3階講座室

### 3 出席委員

委 員	馬 田 綾 子
委 員	大 場 修
委 員	伊 達 仁 美
委 員	川 口 宏 海

### 4 出席した事務局職員

社会教育部長	安 田 博 之
歴史博物館長	伊 元 俊 幸
歴史博物館文化財担当係長	桃 谷 和 則
歴史博物館文化財担当学芸員	室 谷 公 一
歴史博物館文化財担当学芸員	井 上 亮

### 5 開 会

司会進行 伊元館長

### 6 挨 拶

安田部長

### 7 議 事 等

議事1 「令和3年度尼崎市指定文化財候補物件の調査について」

- ・「寛文十年頃尼崎城下絵図」、「元禄期尼崎城下絵図」について、実見、調査を実施した。

#### ① 寛文十年頃尼崎城下絵図

- ・築地町、城内の各施設等から絵図の作成年代を確定ないしは、確定に近い状態で指摘しているという構成の説明文となっている。
- ・尼崎城は工事開始が元和4年正月とはっきりとわかっているため、その辺を明確にした方が良く指摘。
- ・完成の基準は、尼崎の城下の町は旧町が4つ、新町が2つそれに築地町を入れて尼崎8町が出来上がる。城郭の完成、城下町の完成は出屋敷の完成をもって言う。それ以降は、ちょっとした拡大があるが、ちょっとした変化で、城下町としての完成はこの時期で寛文9年5月以降となる。
- ・藩政資料の中の1点として既に指定されて尼崎城下絵図があり、寛文十年頃尼崎城下絵図の張り紙は明治以降に張られたものであるが、その内容もすでに指定されている「尼崎城下絵図」に描かれていることから、すでに指定されている「尼崎城下絵図」は明治以降に写されたものと考えられることを説明。
- ・城絵図とか城下絵図は1枚はあるものだが、本来は外に出てはいけないものであるが、誰かが、内緒で写したものが次第に外部に流出していった。当時から、城マニアがい

て、そういった人が収集していたようであるが、本来は町役人しか見られないものであったことを説明。

- ・藩政資料は1811年以降の松平家の資料で、大正時代の尼崎の図書館で出品された、旧藩主資料がそのまま図書館に入り、一括で指定していることを説明。

## ② 元禄期尼崎城下絵図

- ・先ほどの寛文十年頃尼崎城下絵図よりは後の状況を示している。これまでは、元禄期の絵図と言われていたが、具体的には中在家町の状況、恵比須社の位置、西町口門の状況から、元禄期より以前の状況を示していることを説明。
- ・元の外題箋とは別に、絵図が折り畳まれた状態で表紙が付けられており、そこに外題箋で「尼崎城下図」と貼ってあった。元々、地域研究史料館の『地域史研究』という雑誌の中で、江戸時代の絵図を紹介する論考があり、その中で初めて「元禄期尼崎城下絵図」という名称が使用された。その際の根拠は築地町の砂洲が発展していることから、元禄期であるという明確な根拠はないが、17世紀後半という意味で付けられたと考えられることを説明し、もう一度検討し、名称を改めた方が良いことを説明。普通、名称は時期を示す、年号がはっきりしていれば、その年号をつける。江戸後期城下絵図とする場合もあるが、分かる範囲で時期を示す名称が付く。この絵図の場合は、寛文から元禄の間頃の年号が一番良いことを説明。
- ・出屋敷の道が鉤型（クランク状）にならないといけない所が、この系統の絵図は斜めの道として描かれているということが独特の特徴となっていることを説明。
- ・本図は写しで、当初の絵図は別にあったと考えられ、同系統の絵図を見ると微妙に差異が見られる。その中で本図は丁寧に描かれており、大きさや貴布禰神社に伝わった由緒などから当初の絵図に近い絵図と考えられることを説明。

「寛文十年頃尼崎城下絵図」、「元禄期尼崎城下絵図」について、「元禄期尼崎城下絵図」については名称も含めて、次回の第3回の審議会で答申文の作成を進めていくこととなった。

## 8 その他

### 第3回の審議会の日程について

- ・第3回の審議会の日程については、令和4年1月21日（金）14時から16時開催として、審議を終了した。

以上